

廿八品は悉く南無妙法蓮華經の事

疏の十に云はく「総じて一經を結するに唯四のみ。其の枢柄すうへいとを撮つて之を授与す」と。

御義口伝に云はく、一經とは本迹廿八品なり。唯四とは名用体宗の四なり。枢柄とは唯題目の五字なり。授与とは上行菩薩に授与するなり。之とは南無妙法蓮華經なりと云へり。今日蓮等の類いまたぐい弘通の南無妙法蓮華經は体なり心なり、廿八品は用なり廿八品は助行なり。題目は正行なり、正行に助行を撰すべきなり。

一 無量義經の事

御義口伝に云はく、妙法の序分無量義經なれば十界悉く妙法蓮華經の序分なり。

一 序品

御義口伝に云はく、如是我聞の四字を能く能く意得れば、一經の無量の義理知られ易きなり。十界互具三千具足の妙法と聞くなり。此の所聞は妙法蓮華と聞く故に妙法十界互具の三千清浄なり。此の四字を以て一經の始終わたに亘るべきなり。廿八品の文々句々の義理を我が身の上の法門と聞くを如是我聞とは云ふなり。其を聞く者は南無妙法蓮華經なり。去れば皆成仏道と云ふなり。此の皆成の二字は十界三千に亘るべきなり。妙法の皆成なるが故なり。又仏とは我が一身なり。是又十界三千の心なり。道とは能通の名なる故に十界の心に通ずるなり。此の時皆成仏道と顯はるゝなり。皆成仏道の法は南無妙法蓮華經なり云云。

一 方便品

御義口伝に云はく、此の品には十如是を説く。此の十如是とは十界なり。此の方便とは十界三千なり。既に妙法蓮華經を頂く故に十方仏土中唯一乘法なり。妙法の方便、蓮華の方便なれば秘妙なり、清浄なり。妙法の五字は九識なり、方便は八識なり。八識は迷ひなり、九識は悟りなり。妙法蓮華經方便品と題したれば迷悟不二なり。森羅三千の諸法、此の妙法蓮華經の方便に非ずと云ふ事無し。品とは義類同なり。義とは三千なり、類とは互具なり、同とは一念なり。此の一念三千を指して品と云ふなり。此の一念三千を三仏合点し玉ふなり。仍よつて品々に題せり。所謂南無妙法蓮華經の信の一念より三千具足と開けたり云云。

一 譬喩品

御義口伝に云はく、此の品の大白牛車とは「無明癡惑むみょうちわくほんぜぼっしょう本是法性」の明闇一体の義なり。即ち三千具足の一乗をかゝげたる牛なれば、即ち明闇一体の三千具足の義なり。法界に遍満したる一法なれば一乗と云ふなり。此の一乗とは、諸乗具足の一乗なり、諸法

具足の一法なり。故に白牛は一なりと雖も無量の白牛なり。一切衆生の^{たい}体、大白牛車なるが故なり。然れば妙法の大白牛車に妙法の十界三千の衆生乗じたり。蓮華の大白牛車なれば、十界三千の衆生も蓮華にして清浄なり。南無妙法蓮華經の^{ほつたい}法体此くの如し。

一 信解品

御義口伝に云はく、此の信解は中根の四大声聞の領解に限るに非ず。妙法の信解なるが故に十界三千の信解なり。蓮華の信解なるが故に十界三千の清浄の信解なり。此の信解の体は南無妙法蓮華經是なり云云。

一 藥草喩品

御義口伝に云はく、妙法の藥草なれば、十界三千の毒草、蓮華の藥草なれば本来清浄なり。清浄なれば仏なり。此の仏の説法とは南無妙法蓮華經なり云云。されば此の品は種相体^{しゅそうたいしゅう}性の種^{じゅ}の字に種類種^{じゅるいしゅ}・相對種^{これ}の二つの開会之有り。相對種とは三毒即三徳なり。種類種とは始めの種^{たね}の字は十界三千なり、類とは互具なり、下の種^{たね}の字は南無妙法蓮華經なり。種類^{たねたくい たね}の種なり。十界三千の草木各々なれ共、唯南無妙法蓮華經の一種なり。毒草も毒木も悉く清浄の草木にして藥草なり云云。

一 授記品

御義口伝に云はく、十界三千の己々の当体の言語一法の授記なれば本来の授記なり。蓮華の清浄の授記なり。清浄なれば十界三千の仏なり。爰^{ここ}を以て仏なれば南無妙法蓮華經の授を記するなり。

一 化城喩品

御義口伝に云はく、妙法の化城なれば十界同時に無常なり。蓮華の化城なれば十界三千の開落なり。常住無常^{とも}俱に妙法蓮華經の全体なり。化城宝処は生死本有なり。生死本有の体^{たい}とは南無妙法蓮華經なり。釈に云はく「起^{これ}は是法性の起、滅^{これ}は是法性の滅」と。

一 五百品

御義口伝に云はく、此の品には五百の弟子受記作仏すと現文に見えたり。爾^{しか}りと雖も妙法の五百なれば十界三千皆五百の弟子なり。蓮華の弟子なれば^{みな}皆清浄なり。所詮十界三千南無妙法蓮華經の弟子に非ずと云ふ事無し。此の經の授記^{これ}是なり云云。

一 人記品

御義口伝に云はく、此の品には学・無学の聖者来たつて成仏するなり。妙法^{ちようだい}頂戴の学・無学なれば十界互具三千具足の学・無学なり。妙法の学・無学なる故に不思議十界煩惱未尽なり。蓮華の学・無学なれば十界三千清浄の開落なり。此の学・無学とは何物ぞや。学とは法なり、無学とは妙なり。所謂題目なり云云。

一 法師品

御義口伝に云はく、妙法の法師なれば十界^{みな}皆妙法受持の一句一偈の法師なり。蓮華の法師なれば十界三千清浄の法師なり。十界衆生の色法は能持の人なり。十界の心性は所持の法なり。仍って色心共に法師として自行化他を顕はすなり。所謂南無妙法蓮華經の法師なるが故なり云云。

一 宝塔品

御義口伝に云はく、此の宝塔は宝浄世界より涌現するなり。其の宝浄世界の仏とは事相の義をば且く之を置く。証道觀心の時は母の胎内^{これ}是なり。故に父母は宝塔造作の番匠なり。宝塔とは我等が五輪・五大なり。故に託胎^{たくたい}の処を宝浄世界と云ふ。故に出胎する処をば涌現と云ふなり。凡そ衆生の涌現は地輪より出現するなり。故に從地涌出^{じゅうじゅつ}と云ふなり。妙法の宝浄世界なれば十界の衆生の胎内^{これ}は皆是宝浄世界なり。蓮華の宝浄世界なれば十界の胎内悉く無染清浄の世界なり。妙法の地輪なれば十界に亘るなり。蓮華の地なれば清浄の地なり。妙法の宝塔なれば我等の身体は清浄の宝塔なり。妙法蓮華の涌現なれば十界の出胎の産門、本来清浄の宝塔なり。法界の塔婆にして十法界即ち塔婆なり。妙法の二仏なれば十界三千^{みな}皆境智の二仏なり。妙法の所座なれば十界三千の心性^{みな}皆以て二尊の所座なり。蓮華の二仏の所座なれば不思議なり、清浄なり。妙法蓮華の見なれば十界の衆生三千の群類^{みな}皆自身の塔婆を見るなり。十界不同なれ共、己が身を見るは三千具足の塔を見るなり。己が心を見るは三千具足の仏を見るなり。分身とは父母より相續する分身の意なり。迷ふ時は流轉の分身なり、悟る時は果中の分身なり。さてこそ分身の起こる処を習ふには地獄と習ふなり。かゝる宝塔も妙法五字より外^{これ}は之無きなり。妙法蓮華經を見れば宝塔なり。宝塔即一切衆生なり。一切衆生即南無妙法蓮華經の全体なり云云。

一 提婆品

御義口伝に云はく、此の品には釈尊の本師提婆達多の成仏と、文殊師利教化の竜女成仏とを説くなり。是又妙法の提婆竜女なれば、十界三千^{みな}皆調達竜女なり。法界の衆生の逆辺は調達なり。法界の貪欲・瞋恚・愚癡^{とんよく しんに くち}の方は悉く竜女なり。調達は修徳の逆罪、一切衆生は性徳の逆罪なり。一切衆生は性徳の天王如来なり、調達は修徳の天王如来なり。竜女は修徳の竜女、一切衆生は性徳の竜女なり。所詮釈尊も文殊も提婆も竜女も、一つ種の妙法蓮華經^{くのう}の功能なれば本来成仏なり。故に南無妙法蓮華經と唱へ奉る時は十界同時に成仏するなり。是を妙法蓮華經の提婆達多と云ふなり。十界三千の竜女なれば無垢世界^{むくせかい}に非ずと云ふ事無し。竜女が一身も本来成仏にして南無妙法蓮華經の当体なり。

一 勸持品

御義口伝に云はく、此の品の姨母・耶輸^{いも やしゆ きべつ}の記莂は十界同時の授記なり。妙法の姨母、

妙法の耶輸なるが故なり。十界の衆生の心性は所持の経の体なり。是即ち勸持の流通なり。心性の所持の経を勸持して自行化他に趣くなり。姨母・耶輸は女人成仏なり。二万の大士は男子の流通なり。此の文陰陽一体にして南無妙法蓮華経の当体なり云云。

一 安樂行品

御義口伝に云はく、妙法の安樂行なれば十界三千皆悉く安樂行なり。自受用身の当体なり。身口意誓願悉く安樂行なり。蓮華の安樂行なれば十界三千清浄の修行なり。諸法実相なれば安樂行に非ざること莫し。本門の心は、十界の色心本来本有として真実大安樂行なり。安樂行の体とは所謂上行所伝の南無妙法蓮華経是なり。靈山浄土に安樂に^{ぎょうけい}行詣すべきなり云云。

一 涌出品

御義口伝に云はく、此の品は迹門流通の後本門開頭の序分なり。故に先づ本地無作の三身を顕はさんが為に、釈尊所具の菩薩界本化の弟子を召すなり。是又妙法の從地なれば十界の大地なり。妙法の涌出なれば十界皆涌出なり。十界妙法の菩薩なれば皆饒益有情界の慈悲深重の大士なり。蓮華の大地なれば十界の大地なり。蓮華の大士なれば十界涌出の菩薩本来清浄なり。所詮悟道に約する時は從地とは十界の衆生の大浮所生なり。涌出とは十界の衆生の出胎の相なり。菩薩とは十界の衆生本有の慈悲是なり。此の菩薩に本法の妙法蓮華経を付嘱せんが為に從地涌出するなり。日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉る者は從地涌出の菩薩なり。外に求むる事無かれ云云。

一 寿量品

御義口伝に云はく、寿量品とは十界の衆生の本命なり。此の品を本門と云ふ事は本入門と云ふ事なり。凡夫の血肉の色心を本有と談ずるが故に本門と云ふなり。此の重に至らざるを始覚と云ひ迹門と云ふなり。是を悟るを本覚といひ本門と云ふなり。所謂南無妙法蓮華経は一切衆生の本有の在所なり。爰元を^{ここともと}経に我実成仏已来とは云ふなり。

一 分別功德品

御義口伝に云はく、此の品は上の品の^{とき}時本地無作の三身如来の寿を聞く故に、今品にしては上の無作の三身を信解するなり。其の功德を分別するなり。十界己々当体の三毒煩惱を此の品の時其の^そ儼妙法蓮華経の功德と分別するなり、其の功德とは十界の衆生の功德なり。本有として十界の衆生の功德有り。其の功德とは本有の南無妙法蓮華経是なり云云。

一 隨喜功德品

御義口伝に云はく、妙法の功德を隨喜する事を説くなり。五十^{てんでん}展転とは、五とは妙法の五字なり、十とは十界の衆生なり、展転とは一念三千なり。教相の時は第五十人の隨

喜の功德を校量^{きょうりょう}せり。五十人とは一切衆生の事なり。妙法の五十人、妙法の展転なるが故なり。所謂南無妙法蓮華經を展転するなり云云。

一 法師功德品

御義口伝に云はく、無作三身の如来の寿も分別功德も随喜も、我が身の上の事なり。然れば父母所生の六根は清浄にして自在無碍なり。妙法の六根なれば十界三千の六根皆清浄なり。蓮華所具の六根なれば全く不浄無きなり。此の六根にして南無妙法蓮華經と見聞覚知する時^{とき}本来本有として六根清浄なり云云。

一 不輕品

御義口伝に云はく、此の菩薩の礼拝の行とは一切衆生の事なり。自他一念の礼拝なり。父母果縛^{かばく}の肉身を妙法蓮華經と礼拝するなり。仏性も仏身も衆生の当体の色心なり。故に直ちに礼拝を行ずるなり。止観の第二に云はく、一切衆生の順逆十二因縁を以て廿四の尊像と釈し玉ふは此の故なり。仍^よって皆当作仏と礼拝せり。皆当作仏の四字は南無妙法蓮華經の種子に依るなり云云。

一 神力品

御義口伝に云はく、十種の神力を現じて上行菩薩に妙法蓮華經の五字を付嘱し玉ふなり。神力とは十界三千の衆生の神力なり。凡夫は体の神力、三世の諸仏は用の神力なり。神とは心法、力とは色法なり。力は法なり、神は妙なり。妙法の神力なれば十界悉く神力なり。蓮華の神力なれば十界清浄の神力なり。総じて三世の諸仏の神力とは此の品に尽くせり。釈尊出世の神力の本意も此の品の神力なり。所謂妙法蓮華經の神力なり。十界皆成と談ずるより外には諸仏の神力は之^{これ}有るべからず。一切の法門神力の二字に非ずといふこと無し云云。

一 嘱累品

御義口伝に云はく、此の品には三摩の付嘱を説いて此の妙法を滅後に留めたまふなり。又妙法の付嘱なれば、十界三千皆付嘱の菩薩なり。又三摩する事は能化所化所具の三觀三身の御手を以て所化の頂上に明珠を灑^{そそ}ぐと云ふ心なり。凡そ頂上の明珠^{みょうじゆ}は覚悟の知見なり。頂上の明珠とは南無妙法蓮華經なり云云。

一 薬王品

御義口伝に云はく、此の品は薬王菩薩の仏滅後に於ける法華經弘通なり。所詮焼身^{しょうひ}焼臂とは焼は照の義なり、照は智慧の義なり、智能く煩惱の身生死の臂を焼くなり。凡そ天台大師も本地は薬王菩薩なり。能説に付いては釈迦なり。衆生の業病を消除する方では薬王薬師如来なり。又利物の方では薬王菩薩と云ひ、自悟の方では薬師と云ふ。薬王薬師は出世の時は天台大師なり。薬王も滅後に弘通し、薬師如来も像法転時の利益

有情なり。時を以て身体を顯はし、名を以て義を顯はしたまふ事仏の習ひなり。薬王菩薩は止観の一念三千の法門を弘め玉ふ。一念三千とは所謂南無妙法蓮華經なり云云。

一 妙音品

御義口伝に云はく、此の菩薩は法華弘通の菩薩なり。故に卅四身を現じて十界互具の徳を顯はして利益説法するなり。是又妙法の妙音なれば十界の音声は皆妙音なり。又十界悉く卅四身の所現の妙音なり。又蓮華の妙音なれば十界の三千の音声は皆無染清浄なり。されば慈覚大師をば妙音の出世と習ふなり。之に依って唐決の時引声の妙音を伝へ玉へり。何の故有ってか法華を誹謗して大日經等に劣りたりと云ふや。所謂法界の音声、南無妙法蓮華經の音声に非ずといふこと無し云云。

一 觀音品

御義口伝に云はく、此の品は甚深の秘品なり。息災延命の品なり。当途王經と名づくるなり。されば之に付いて職位法門を継ぐと習ふなり。天台も三大部の外に觀音玄と云ふ疏を作り、章安大師は兩卷の疏を作り玉へり。能く能くの秘品なり。觀音法華眼目異名と云ひて、觀音は即ち法華の体なり。所謂南無妙法蓮華經の体なり。

一 陀羅尼品

御義口伝に云はく、此の品は二聖・二天王・十羅刹女、陀羅尼を説いて持經者を擁護し玉ふなり。所謂妙法陀羅尼の真言なれば、十界の語言音声皆陀羅尼なり。されば伝教大師「妙法の真言は他經に説かず、普賢の常護は他經に説かず」と。陀羅尼とは南無妙法蓮華經の用なり。此の五字の中には妙の一字より陀羅尼を説き出だしたり。

一 嚴王品

御義口伝に云はく、此の品は二子の教化に依って嚴王邪見を改めて正見に住したり。沙羅樹王仏と成るなり。沙羅樹王仏とは梵語なり。此には熾盛光と翻ず。一切衆生は是皆盛光より出生したる一切衆生なり。此の故に十界の衆生の父なり。熾盛光とは、或は大黒天神共、或は土宮神共云ふなり。然れども父母交会の一念なり。法華經の意は自受用智なり。忽然火起 焚燒 舍宅とは是なり。煩惱の一念の火起こりて迷悟不二の舍宅を焼くなり。邪見とは是なり。此の邪見を邪見即正と照らしたるは南無妙法蓮華經の智慧なり。所謂六凡は父なり。四聖は子なり。四聖は正見、六凡は邪見なり。故に六道の衆生は皆是我が父母とは是なり云云。

一 勸發品

御義口伝に云はく、此の品は再演法華なり。本迹二門の極理此の品に至極するなり。慈覚大師云はく、十界の衆生は發心修行と釈し玉ふは此の品の事なり。所詮此の品と序品とは生死の二法なり。序品の品は我等衆生の生なり。此の品は一切衆生の死なり。生

死一念なるを妙法蓮華經とは云ふなり。序品の題号は生なり、終はりの題号は死なり。此の法華經は生死生死と^{めぐ}轉りたり。生の故に始めに如是我聞と置く。如は生の義なり。死の故に終はりに^{さらいにこ}作礼而去と結したり。去は死の義なり。作礼の言は生死の間に成しと成す処の我等衆生の所作なり。此の所作とは妙法蓮華經なり。礼とは不乱の義なり。法界妙法なれば不乱なり。天台大師云はく「^{たい}体の字は礼に訓ず。礼は法なり。各其の親を親とし、各其の子を子とす。出世の法体も亦復是くの如し」と。体とは妙法蓮華經の事なり。先づ体玄義を釈するなり。体とは十界の異体なり。是を法華經の体とせり。此等を作礼而去とは説かれたり。法界の千草万木地獄餓鬼等、何れの界も諸法実相の作礼に非ずと云ふ事無し。是即ち普賢菩薩なり。普とは法界、賢とは作礼而去なり。是即ち南無妙法蓮華經なり。^{ここ}爰を以て品々の始めにも五字を以て記し、終はりに^{しか}も五字を以て結したり。前後中間南無妙法蓮華經の七字なり。末法弘通の要法は唯此の一段に^{しか}爾ず。若し此等の心を失ひて要法に結せずんば末法弘通の法には足らざる者なり、^{あまつさ}剩へ日蓮が本意を失ふべし。日蓮が弟子檀那別の広才無益なり。妙樂大師云はく「子父の法を弘む世界の益有り」と。子とは地涌の菩薩なり、父とは釈尊なり、世界とは日本国なり、益とは成仏なり、法とは南無妙法蓮華經なり。今又以て此くの如し。父とは日蓮なり、子とは日蓮が弟子檀那なり、世界とは日本国なり、益とは受持成仏なり、法とは上行所伝の題目なり。

六老僧の^{しよもう}所望に依って老期たりと雖も、日蓮が本意の^{いったん}一端護義せしめ^{あわ}畢んぬ。是^{しかしなが}併ら私に最要文を集めて読誦せしむる所なり。然る^{あいた}間法華諸要の文書き付け畢んぬ。此の意は或は文を^{かく}陰して義を取り、或は義を隠して文を取り、或は文義共に顯はし、或は文義共に隠して講談するなり。

委しくは註法華經を拜見すべし。然りと雖も文義甚深の間、^{くまい}愚昧に及ぶべからざるなり。広宣流布の要法、^{あに}豈此の註法華經に過ぎんや。

就註法華經口伝下
弘安元年^{戊寅}正月一日

日 蓮 在御判
執筆 日 興